

【講演タイトル】

歯科技工士に求められる災害歯科の基礎知識と体制づくり

ー災害時用即時義歯マニュアル策定と全国調査から見た現状と課題ー

【抄録】

近年、地震や風水害などの大規模災害が全国各地で頻発する中、避難所における被災者の口腔機能の早期回復は、全身の健康維持の観点から極めて重要とされています。こうした状況のもと、歯科技工士に対する需要や、その果たすべき役割は一層高まりつつあります。

本講演では、歯科技工士として最低限理解しておくべき「災害歯科」の基本的な概念を概説するとともに、実際の災害現場で求められる知識や対応について解説します。あわせて、広島県歯科技工士会が策定した「災害時用即時義歯製作マニュアル」および、それに基づいて実施された実技講習会の内容を紹介し、平時からの備えと教育体制の重要性について考察します。

さらに、日本歯科技工士会の助成事業である JDAT（日本災害時歯科支援チーム）の標準研修・アドバンス研修、ならびに JIMTEF（国際医療技術財団）が実施する災害医療研修の概要を紹介し、歯科技工士として理解・参加すべき研修制度についても取り上げます。

そして最後に、筆者が主担当として実施した「全国の歯科技工士会を対象とした災害時対応に関する調査研究」の結果を共有し、今後、我々歯科技工士に求められる広域的な連携と体制整備の方向性について、参加者の皆様とともに考える機会となれば幸いです。